

2025年
クイーン倶楽部だより 7月号
第269号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL 0258(66)0070
FAX0258(66)0447
URL <http://www.eco-rice.jp/>
E-mail office@eco-rice.jp





凧合戦
豊作祈願
大空を舞う!



今年も伝統の「見附今町・長岡中之島大凧合戦」に参戦、豊作を願って2機の凧を揚げました。

今回から従業員の大島が凧組合に所属。凧の制作や飾り凧の設置などにも参加し、例年以上に気合の入った凧あげになりました。

これさえ
わかれば
大凧通!

風が強く、しっかり凧を飛ばせる状態のときは、空中で凧同士を絡めます。風が弱いときは、地上で凧同時を絡めてから飛ばします(地絡め)。

大 凧
豆 知 識

絡めた凧の糸が切れてしまうと負け。勝者は相手の凧をもらうことができます。糸が切れずに落下した場合は引き分け。

凧の糸の撚り目の方向と絡め方がとても重要。

それで
いいのか
医療

出世児減少の切り札、大家族制度

その22

先日朝刊のトップが令和6年度の出生数が70万人を割ったという国憂ものでした。何せ私は戦後のベビーブーマーで、同年齢270万人で常に大集団に悩まされてきました。中学校入学時は全国で教室増設騒ぎ、大学入試20数倍、就職高競争倍率などに付き合わされ、人口はがんがん増えていました。

しかし、時代は大きく変わり、少子化に加え、大量葬式時代に突入し、人口は急速に減少しています。出生児数年間70万人未満では確かに驚きで、日本人口1億人を割るのは確実です。若い頃は日本の人口抑制が叫ばれ、10年ほど前に実現しましたが誰も喜ばず、人口減少で日本が滅ぶ憂いに極端にぶれました。極端なぶれについてゆけず、人口8千万人ぐらまでは鷹揚に付き合ってみるのが賢明でしょう。

低出生児数の最大の原因は、母親の共稼ぎと預け育児にあります。これは、母親の疲労と高出費についてゆけず二人目の子供がとても無理な状態です。戦後、日本の母親は大家族主義からの解放と核家族化運動に邁進し、これも実現しましたが、今は母親を苦しめています。そこで、おじいさん、おばあさんに家事と子供の世話を、という戦前の“大家族主義”に帰る運動です。三世同居でお母さん、お父さんは外で仕事、家事と子育てはおじいさん・おばあさんですが、片親も多いので、実親子でなくシェアハウスでもよいのでは。



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学名誉教授。まほろば東京クリニック院長。「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者。